

市長記者会見記録

日時：2026年3月26日（火）14時00分～14時10分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

《4月1日付人事異動について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑応答に入らせていただきます。まずは幹事社様から御質問よろしくをお願いします。

【毎日】 幹事社、毎日新聞です。お願いします。

新年度の川崎市の人事が今後発表されます。今回の人事の狙いについて、何かお考えがございましたら、お聞かせください。

【市長】 人事は毎年のことでありますけれども、それこそ一人一人の職員の経験と能力が最大限に活かされるようにということを考えて、適材適所という形で人事を行ったと思っております。

《JR東日本南武線のワンマン運転について》

【毎日】 もう一点です。JR南武線のワンマン化が始まって、今月で約1年たちました。当初、列車の遅延など、利用者からの声が結構多かったと思っておりますけれども、現在、1年経過して、市長の御認識についてお聞かせください。

【市長】 そうですね、遅延が発生していた状況については、適時JRさんともしっかり情報を共有して、対策について、しっかり改善を図っていただきたいという要望をさせていただいて、それについてのできる対策を取ってきていただいていると思っております。そうした意味で、改善されてきていると考えておりますので、引き続きこれについては注視していきたいと思っております。

【毎日】 ありがとうございます。

《大都市制度について》

【産経】 産経新聞です。よろしくをお願いします。

全国知事会の大都市制度のあり方に関する検討プロジェクトチーム会議の初会合が23日に開かれましたが、改めて、この会合に対する思うところなり、あるいは期待

することなりがあれば、よろしく申し上げます。

【市長】 まず、知事会として、こういうプロジェクトチームを立ち上げられて、特別市を含む大都市制度の在り方ということについて御議論が始まるということは非常に歓迎したいと思っております。

今回の地制調のように、都道府県と市町村の在り方、それから大都市制度、それぞれがどういう役割を担っていくべきなのかということ、この人口減少の社会ですから、その中で、どうそれぞれ役割を果たしていくべきなのかということ、大局的な見地から、しっかり御議論を知事会の中でもしていただきたいし、私たちもしっかりと知事会との議論、意見交換というのは望んでおりますので、建設的な意見をやっていければいいなと思っております。

【産経】 ありがとうございます。

【司会】 では、幹事社様以外で御質問ございましたら、よろしく申し上げます。

東京新聞さん、お願いします。

《副市長の人事について》

【東京】 東京新聞です。副市長人事が議決されましたけれども、今回、加藤副市長、藤倉副市長が退任されるのは、ある程度前から見えていたことなのかなと思う中で、1人は白鳥さんでというのは、市長の中ではいつぐらいから考えられていたのか、お聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 あまりいつから明確にというのはございません。

【東京】 去年、上下水道事業管理者に就任されたときに、市長としては、上下水道局には、専門性の高さゆえに、それ以外のものを軽視するプロフェッショナルのわながあるから、それを突破できる人ということ、白鳥さんを選ばれた理由に挙げられていたと思うんですけれども、上下水道局、組織風土の改善みたいなものがいろいろと議論になっていた中で、白鳥さん、どこまでそれを進めてくれたと考えていらっしゃいますか。

【市長】 白鳥さんの下に、非常に意識改革というか、前、私が申し上げたようなプロフェッショナルなわなというものに果敢にチャレンジして、そして組織の中でチームワークよくマネジメントしていただいていると思っております。その取組というのを次の方に、そしてオール市役所という形で、これからも御活躍をいただきたいと思っております。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますか。朝日新聞さん、お願いします。

《柿生学園の運営等について》

【朝日】 朝日新聞です。

柿生学園のことについて伺いたいと思います。4月から指定管理者が替わって、新しい法人が運営を始めますけれども、これまで引継ぎへの不安などが議会でもやり取りされていましたが、4月以降、市として、実際に運営がきちんとされているかどうかというチェックはどのようにしていくつもりか、お聞かせください。

【市長】 まずは、しっかりと引継ぎが行われるようにという形での取組というのは、私たちからも両法人にお願いしてきたという経緯もありますので、そこをしっかりと見ていくことが、まず4月1日を迎えるための取組だと思います。

その上で、これは通常のことだと思いますが、法人の運営者が替わるというタイミングでは、しっかりと注意していくということだと思います。それはこの件にかかわらずということだと思いますので、しっかりとやっていきたいと思っています。

【朝日】 専門職の方を定期的に入れて見ていくとか、そういうことは考えていらっしゃいますでしょうか。現場にです、市から。

【市長】 今回の柿生学園ということですか。

【朝日】 はい。

【市長】 いや、特に何か、特別な何かをしなければならないという認識を、今持っておりません。まずはしっかりと業務を引き継いでいただいて、新しい形でいいスタートを切っていただきたいと思っています。

少なくとも選定委員会の中では非常にいい評価を得ているということですので、その計画に見合った運営をしっかりとやっていただくということですから、それに対して私どもがプラスアルファ何かをするということは、ちょっとおかしな話だと思いますので、そこをしっかりと提案されたような運営をされていくことというのを見ていくことになると思います。

【朝日】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。

じゃあ、日経さん、お願いします。

《量子実証川崎モデル創出事業について》

【日経】 日経新聞です。

先月17日、量子実証川崎モデル成果報告会がありました。自治体としては、非常に先駆けて量子計算を行政に反映させるという試みですけれども、まずは屋内スポーツ施設の予約とオンデマンドバスの最適化、この2つ、ありましたけれども、市長、

今後どのように量子計算を行政に反映させていくことをお考えでしょうか。具体的なものですとか、あとタイムスケジュールといいますか、そこら辺を教えてください。

【市長】 そうですね、今回まずやってみるということで始まった取組ですので、これからいろんな様々なニーズが、行政ニーズというものを拾い上げて、量子の特性に合うものはどういうことなのかというのを、少しまだ見極め段階だとは思っていますので、今回の2つの事例というのをもう一回私自身も検証して、次にどういうふうにつなげていくべきなのかなということを考えていきたいと思っています。

量子が得意なものと、それから古典コンピューターみたいなものから、いろいろその性質だとかも違うので、どういうものが本当に向いているのかということの試行錯誤をしていく、社会実証していく上ですね。その始まりですので、そういった意味では、いろんなものにチャレンジしていくということが、今は大事な時期なんではないかなと思っています。

【日経】 どうもありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしければ、それでは以上をもちまして、定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当